

「札幌版次世代住宅基準」に関する技術検討会議

第1回会議の課題と今後の対応

第1回会議 課題		今後の対応
国との整合性		<ul style="list-style-type: none"> ・ CASBEE は、環境性能や居住性、快適性、景観なども含めて、建物を総合的に評価する指標。札幌版次世代基準は戸建住宅の省エネルギー性能に特化した基準であり、省エネ性以外の居住性等は CASBEE で評価されることになる。 ・ 国は建物性能と設備を一体で評価しているが、建物性能と住宅設備は2段階で分けて評価した方が良く、国に準じるとトータルエネルギーで評価することになる。
住宅性能基準	新築住宅	<ul style="list-style-type: none"> ・ トップランナーはパッシブ基準とする。 ・ 目標とすべき省エネ性能は国の次世代基準を超える基準とする。
	既築住宅	<ul style="list-style-type: none"> ・ 目標とすべき省エネ性能は「次世代基準を超える基準」 ・ 改修では特に気密性について「次世代基準」を確保するのが難しい ・ 一歩先を目指してモチベーションを高める。「次の世代の断熱改修をしましょう」 ・ いずれやらなければならないと思う仕組み。 ・ 中古住宅こそ、改修に係わる制度が必要。
	共通	<ul style="list-style-type: none"> ・ 建設コストから複数の基準。 ・ トップランナーへ誘導する道筋。
改修時の付加断熱による外壁の扱い等		<ul style="list-style-type: none"> ・ 外壁の後退距離の扱いについては札幌市を中心に検討。
対象住宅の範囲	木賃アパートの扱い	<ul style="list-style-type: none"> ・ 支援の面で木賃も対象とすべき。 ・ 支援の面で木賃も対象とする方向で検討する。
	既築住宅	<ul style="list-style-type: none"> ・ 55年以降の基本的な建物性能を持つ住宅の改修効果が高い。 ・ 既築住宅は S55年以降の住宅を対象とする。

第1回会議 課題		今後の対応
ラベリングについて	一般住宅	<ul style="list-style-type: none"> 札幌市で実施すると信頼度が違う。 道と目標水準を共通化し、連携して表示化することによって中古住宅の改修が進み、地場産業の活性化が図れる ヨーロッパのエネルギーパス
	木賃	<ul style="list-style-type: none"> 行政によるエネ消費表示の義務化も必要か。 利害の絡むことであり難しいと思うが、消費者保護の立場から、ラベリングがあるべき。
資金面からの支援		<ul style="list-style-type: none"> 政投銀と札幌市の協働による資金面からの支援。
経済の活性化		<ul style="list-style-type: none"> 中古住宅の性能確保による市場の活性化。 道と市の連携。 既存住宅の有効利用。